

2014年10月1日

世界に向けて日本の存在価値をどのように提供できるのか？
～日本のプレゼンスを高める人材を育む～

CRT 日本委員会 専務理事兼事務局長
石田 寛

不透明で、不確実な時代の中で、日本の立ち位置や存在感がこれほどまで形骸化していくことに、私は今まで以上に危機感を持っています（日本の競争力、地位や評判の低下など）。

つまり、日本が存在感を示しているのは、世界地図上の地理学だけで、世界にどれだけの存在価値を提供しているのでしょうか？これは、20世紀にみられた世界を敵にしてでも日本が独り勝ちするようなことではなく、グローバル化とダイバーシティ化の時代下において、日本がどのような役割を担うことができるのでしょうか？今資本主義社会が行き詰まっている中で、日本が真剣に・本気で世界レベルで率先して対応できるようにしていかなければいけないと思っています。

それは、日本が常に世界のナンバーにならなくても、オンリーワンの存在感を示すことが求められているような気がします。

日本の周辺であるアジア諸国を見ますと、中国、インド、韓国などが猛烈な勢いで経済成長を成し遂げており、先進国の仲間入りをしようとする状況は、同じアジア人として誇りに思っています。これからの世界の注目すべき市場は、言うまでもなくアジア地域になっていることはすでにご存知の方々も多いことでしょう。

こうした状況において、日本の存在感を増していくためには、これまでと違った視点で物事を捉えていかなければいけないと強く感じています。つまり、日本は、中国、インド、韓国と同じような視点ではない価値観を探し求めていくことがとても重要になってきています。そして、自分たちが何をもって成長や成功したいのか、その計るものさしの尺度を見直していくことが必要ではないでしょうか？それは、これまでの常識に捉われることがなく、また与えられた課題に対して正確に解を求められるだけでなく、自らが率先して課題を見つけて、その解を導きだせるような人材を育てていかなければいけないと考えています。

企業であれば、企業価値を目安として考えられてきた貨幣価値のものさしである財務的な価値はとても大切なことです。しかしながら、私がここで強調したことは、これ以外に非財務的な価値をどのように認識して企業価値に上手く結びつけていくことができるか注目していきたいのです。何故なら、財務的な価値は、既に世界的に制度化が進んでいる一方で、非財務的な価値はまだ未開の領域で多く存在し、オンリーワンの存在価値を提供できるからです。

オンリーワンを実現するために注目すべき領域は、価値観の着眼点をどのように捉え、色々と違う価値観を集約して、自社や自分たちの成長や成功のものさしに落ち込むことができるかどうかにかかっています。しかしながら、これを具現化する人材が果たしてどれだけ多く存在しているのでしょうか？

おそらく以下の問いに応えられる人材が社内やプロジェクトを遂行していく中でいるのでしょうか？

自分を知り、他者を知り、そして世界を知ることができるか？

指示待ち型人間から脱却し、提案指図型人間へ脱皮できるか？

自由自在に発想を変えて、多面的な切り口で物事の本質を見抜けるか？

ぶれない判断軸を持ちながら、決断できるか？

自らが課題の抽出、何をすべきか理解し、行動・実践できるか？

自分自身で自らのあるべき姿を磨き上げていくことが出来るのか？

世界観の中で、自らの立ち位置を把握しているか？

多様な価値観の中で、持論形成ができるか？

最後に、世界に通用する人材を育成し、その後世界の中でオンリーワンの存在になるような日本人を育てていくことが自分に課せられた使命だと思っています。

この価値観を共有できる方々には、是非一緒に連携していきたいと願っています。私の信念は、“自らを正し、誰が正しいではなく、何が正しいか”です。

今こそ、お互いに力を合わせていくことが求められています。